



12月号 令和5年11月24日 発行

# 四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校  
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60  
TEL(048)466-4711  
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

がしんしょうたん  
臥薪嘗胆

校長 稲泉 功

冷たい北風が吹き出し、期末テストが終わると、2学期もいよいよまとめの段階です。試験後、答案が返ってくると思いますが、しっかりと見直して復習しておきましょう。確かな学力を身につけることがなにより大切です。また、これから寒くなると風邪をひきやすい季節となりますので、十分な睡眠と温かい食事に心がけ、健康に留意した生活をしましょう。

さて、この2学期を振り返ってみますと、学校・学年として様々な行事を実施してまいりましたが、生徒たちは、それぞれの行事の目的の下に見事にやり遂げ、成長できたと感じております。私は、ひとつひとつの行事とその背景にある普段の学校生活とは、切り離すことができるのではなく、不可分に結びつき、互いに影響し合っているものと考えておりますが、その意味でも、生徒たち全体として、普段の学校生活においても頑張ってきたといえると思っております。

12月の23日から冬休みとなります。この冬休みの年末から年始にかけての様々な動きは、生徒にとってよい勉強の機会となります。ぜひ、多くのいろいろなことを実際に体験させて、実り多い冬休みにしていただきたいと思っております。

ところで、生徒の皆さん、「<sup>がしんしょうたん</sup>臥薪嘗胆」という言葉を知っていますか。<sup>まき</sup>薪に<sup>ふ</sup>臥し、<sup>きも</sup>胆を<sup>な</sup>嘗めるという意味です。この言葉は、中国の春秋時代の故事からきています。時は春秋、呉の国は越の国に攻められ負けてしまいました。しかし、敗戦国の呉王は、常に薪の上に寝て、この恨みを忘れまいと心に誓い、とうとう越の国へのリターンマッチに勝利することができました。

さあ、収まらないのは今度は越王のほうで、苦い胆を嘗めつつ、再び逆転のチャンスをうかがいます。そうして十二年後に、また呉の国を攻め破り念願を果たします。

薪の上に寝るのも、胆を嘗めるのもどちらも恨みの一念を胸に秘めてのことですが、現在ではこの恨みの気持ちより、成功のために耐えるという意味で使われているようです。3年生は進路選択が目前に迫っております。1・2年生も、早いようですがこれから進級を意識して生活していかななくてはなりません。みなさん一人ひとりの目標達成のためにも、臥薪嘗胆の心をもって頑張してほしいと思っております。



金賞クラス、八小で演奏  
合唱コンクール3年金賞の3年4  
組が、11/1朝、八小へ出向いて中  
学生の歌声を披露しました。



東日本大会の演奏を体感  
11/2午後、東日本大会出場を果  
たした誇るべき吹奏楽部の演奏  
を、全校生徒で鑑賞しました。



実りの秋  
11/15、ふれあいファームのサツマ  
イモを収穫しました。協力してく  
れた、1年3組の生徒に感謝。